

国営越後丘陵公園における 新型コロナウイルス感染症対策の取り組み

山岸 隆宏¹・小川 淳一²・甌澤 拓海³

¹国営越後丘陵公園事務所 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

²国営越後丘陵公園事務所 調査設計課 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

³国営越後丘陵公園事務所 工務課 (〒949-2043 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950番1)

国営越後丘陵公園においては新型コロナウイルス感染症対策として臨時休園を含めた公園施設の各種利用制限等を行ってきた。公園利用者の安全・安心の確保と公園のサービスレベル確保のため、関係機関と連携・調整しながら実施した対策・対応の事例について報告する。

キーワード 国営公園, 越後丘陵公園, 危機管理, 新型コロナウイルス感染症, 自治体調整

1. はじめに

国営越後丘陵公園（以下、「当公園」という。）は、本州日本海側唯一の国営公園で、新潟県長岡市の関越自動車道長岡ICから約6km西方の丘陵地帯（標高80～260m）に位置している。計画総面積約400haの内、開園面積は約340haである。

当公園は「健康ゾーン」と「里山フィールドミュージアム」の二つの異なる性格を持つゾーンに区分けをしており、「健康ゾーン」は芝生広場、遊具及び花修景により四季を通じて多様な利用がなされている。また「里山フィールドミュージアム」は、雪国越後の里山を復元し、様々な体験学習の開催や雪国の里山文化の発信に加えて近年ではパークゴルフ利用等、幅広い利用者層に向けて新たな魅力を提供している。

1998年度の部分開園より順次開園区域を拡大し、入園者数も増加傾向で推移し、近年は年間約50万人の入園者数となっている。特に4月～6月の期間中は年間入園者数の約40%程度を占めるなど、多くの利用がなされる期間である。

しかし2020年は新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）拡大防止対策として2月から具体的な対策が求められ、施設の利用停止や臨時休園、その後の再開園・施設の段階的再開を行いながら徐々に公園機能を回復させてきたところである。

本稿は新型コロナウイルス感染症の緊急事態状況において公園利用者の安全・安心の確保と公園のサービスレベルについて関係機関と連携し、調整・対応してきた事例について報告するものである。



図-1 位置図



写真-1 園内の主な施設（バラ・遊具・古民家）

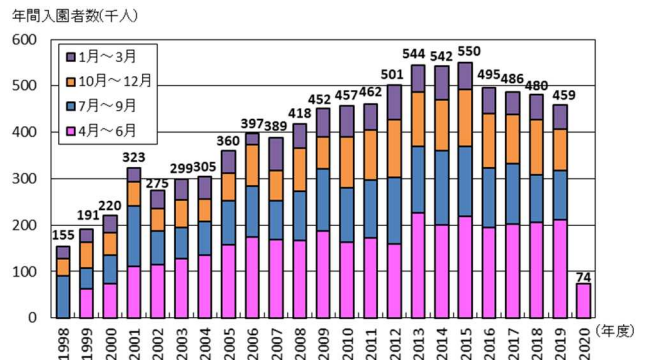


図-2 入園者数の推移

2. 新型コロナウイルス感染症対策の内容

(1) 対策の経過とサービスレベルの概要

今回の対策の経過とサービスレベルの概要は以下のとおり。

- 感染拡大期（2020年2月～3月頃）
（イベント中止・屋内施設の閉館）
- ↓
- 感染ピーク期（2020年4月頃）
（臨時休園）
- ↓
- 感染対策緩和期（2020年5月頃）
（再開園・遊具一部再開・屋内施設の閉館）
- ↓
- 緊急事態宣言解除後（2020年6月～7月頃）
（遊具全再開・園内バス再開・屋内施設再開）

(2) 感染拡大期（2020年2月～3月頃）の対策

国内での感染拡大の状況を踏まえて、2月上旬から職員及び公園スタッフに対して手洗い、咳エチケット等の感染症対策を周知・徹底し、来園者に対しては公園入口ゲート等において感染症対策のチラシを掲示するとともに注意喚起・協力要請の園内放送により周知に努めた。

その後国内において感染拡大が進んだため、国土交通省都市局（以下「本省」という）及び北陸地方整備局（以下「本局」という）と相談しながら2月27日から室内遊具の利用中止、2月29日からは開催中または予定されていた各種イベントの中止や屋内施設の閉鎖、園内における花見等の宴会自粛要請を行った。

これらの対策は当初は3月15日までの予定であったが、感染拡大状況及び新潟県・長岡市の公共施設の対応状況を踏まえて、それ以降も継続することとした。

この期間においては感染拡大状況が日々変化する中で当公園においても感染症対策の見直しを何回も行い、公園利用者の安全・安心の確保に努めた。

(3) 感染ピーク期（2020年4月頃）の対策

4月に入り感染症拡大は続き、東京都等7都府県に対して新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言（以下「緊急事態宣言」という）が発出されたのに続き、4月16日には緊急事態宣言の区域が新潟県を含む全都道府県に拡大された。これを受けて4月17日には新潟県知事及び長岡市長から不要不急の外出自粛・都道府県をまたぐ移動の自粛が要請された。これらの要請を踏まえて、広域的な利用を目的とする国営公園としては開園を続けることは不適切と考えられたため、本省・本局と相談し4月18日より臨時休園とすることに決定した。

なお、この時点では緊急事態宣言の期間は5月6日までとされていたが、大型連休（以下「GW」という。）期間中の再開園対応は困難であること、感染症の収束時期

が不明であったことから臨時休園の期間は「当面の間」とした。

これにより、例年多くの入園者があるGW期間中は休園することとなり、この期間に予定されていた「チューリップまつり」等のイベントも全て中止となった。

(4) 感染対策緩和期（2020年5月頃）の対策

GW期間中の5月4日に緊急事態宣言の期間延長と基本対処方針が変更されたことを受けて、5月8日に本省より国営公園の再開園・施設利用再開について考え方が示され、以下の2点を満たすことが求められた。

- ・ 公園が立地する都道府県の判断
- ・ 感染防止対策等の実施

当公園においてはこの方針を踏まえて、本局と相談しながら各種の対策と利用規制等を講じることで感染症拡大防止の徹底を図ることとし、新潟県及び長岡市の理解を得て、5月12日から再開園することとした。

なお、再開園においてはすべての施設を再開せずに感染症拡大防止対策の状況及び新潟県・長岡市の施設再開状況との整合を図ることとしたため、この時点では以下の5点について利用規制等を実施した。

- a) 遊具エリアの利用禁止
 - ・ ふわふわドーム、木製遊具、芝そりゲレンデ等の遊具使用禁止
- b) 入場制限
 - ・ 健康ゾーン駐車場における駐車台数を約750台に制限。（昨年度の混み具合と平均乗車人数から算出）
- c) 香りのばらまつりの中止
 - ・ 関連するイベントの中止。（バラ鑑賞は可能）
- d) 「3つの密」徹底回避策の実行
 - ・ 建物は閉館（売店、トイレ等の一部除く）
 - ・ 園内バスの運行中止
 - ・ 各種用具類の貸出中止
- e) 県外からの来園自粛のお願い

これらの対策をとりながら再開園したが、入園者の状況等は下記のとおりであり、大きな混乱は発生しなかった。

- ・ 屋外施設であるパークゴルフの利用者が多い。
- ・ 大部分が「再開園を待っていました」との好意的な反応。
- ・ 「まだ再開園は早い」といった否定的な意見等は無かった。



写真-2 「パークゴルフ」の様子

再開園後の施設再開にあたっては段階的に行うこととし、新潟県立公園における遊具が5月21日から順次利用再開となったことから当公園においても5月22日から屋外の木製遊具の利用を再開した。再開にあたっては新潟県・長岡市の対策レベルと整合をとり、感染防止の注意喚起の看板を各遊具付近に設置した。



写真-3 遊具エリアの様子、注意喚起の看板

5月下旬から当公園の主要なセールスポイントである「香りのばら園」の開花時期となり、実施予定であった「ばらまつり」イベントは中止としたが、多くの入園者が予想された。見頃を迎えた5月31日には再開園後の最高となる5,897人の入園者があったが、早朝開園により入園者の分散を図るなどの対策により駐車台数規制による入場者制限には至らなかった。

また、例年この時期の県外からの入園者は20%程度を占めるが、今年は5%程度であった。（入園車両のナンバー調査より）



写真-4 「香りのばら園」の様子

(5) 緊急事態宣言解除後（2020年6月～7月頃）の対策

5月14日に新潟県の緊急事態宣言が解除となった後、5月25日に全国の緊急事態宣言が解除となった。

例年この時期から気温が高温になる日が多くなることから熱中症リスクへの対応及び新潟県・長岡市の屋内施設の再開状況にあわせて、6月1日から「花と緑の館」等の屋内施設（レストラン等の収益施設含む）を再開した。

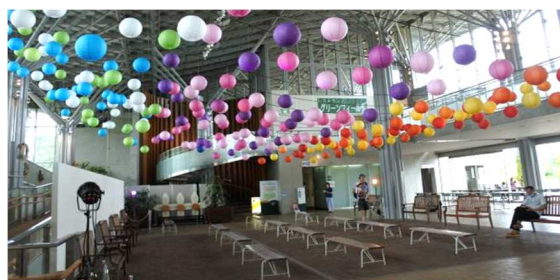


写真-5 「花と緑の館」の様子

再開にあたっては建物内の密集を避けるため、テーブル・イス等を間引いて間隔を確保するなどの対策をとった。

また、当公園では「健康ゾーン」と「里山フィールドミュージアム」間の来園者の移動のために園内バスを運行しているが、混雑期であるバラの開花シーズンが終了した6月20日から園内バスの運行を再開した。再開にあたっては長岡市内のバス事業者の対策を参考に以下の対策をとった。

- 運転手のマスク着用、手洗いうがい励行等の体調管理の徹底。
- バス車内の消毒、清掃（乗客が接触する箇所2回/日）
- 換気のため可能な窓を開けて運行
- 乗車口にアルコール消毒液を設置
- 他のお客さまと離れての乗車 等

屋外遊具の中でも人気の高い「ふわふわドーム」については密集状態となることが想定されたため、再開園後も閉鎖を継続していたが、利用者が密にならないように感染防止対策をとることで6月20日から再開した。具体的な対策としてお客様同士が2m以内の密度になった場合、一時利用を中止し、同時利用人数をコントロールすることとした。また「芝そりゲレンデ」についても貸し出しそりの消毒・清掃等の対策を行うことで利用を再開した。



写真-6 「ふわふわドーム」の様子

夏季供用施設である「水遊び広場」について、長岡市の市営プールのオープンと同日の7月4日にオープンした。感染症対策として土日祝日や夏休み期間中の混雑時には入場制限を行うとともに入退場管理のために「水遊び広場」までの動線コントロールを行うこととした。

利用制限としては休憩場所である「あずまや」内に49区画を設けて300人を上限とした。

また、できるだけ多くの方々に楽しんでいただけるように、混雑時には1回あたりの利用時間は1時間を目安にさせていただくよう案内することとした。



写真-7 「水遊び広場」の様子

さらに、「暖の館」において2019年度に改修した屋内遊具施設「KIDSステーション」をオープンした。長岡市の類似屋内施設等の感染症対策を参考にして、屋外の遊具施設以上に「3つの密」への対策を行うこととした。主な対策は下記のとおりである。

- ・排煙窓を常時開放し、換気を徹底する。
- ・同時滞在利用人員の上限を100名程度（30家族程度とし土日祝日や夏休み期間中は監視員を常時配置して利用者数の管理を行う。
- ・フィジカルディスタンスの確保、手洗い・咳エチケット等の注意喚起
- ・不特定多数の方が触れる主要部位の消毒、清掃の実施



写真-8 「KIDSステーション」の様子

3. 関係機関との連携・調整

今回の感染症対策においては、施設の利用制限の要請等については各都道府県知事が適切に判断するものとされていることから、国営公園においてもこの考え方に準じて、公園が立地する都道府県における都市公園等の判断と整合がとれている必要があった。

また、立地自治体である長岡市の理解も得ることとした。

特に臨時休園後の再開園に際しては、新潟県の県立公園と同レベルの利用制限と感染防止対策の対応をとることとして新潟県から再開園の理解を得るとともに、長岡市についても公園施設や公共施設等の再開状況を確認したうえで当公園は5月12日から再開園することとした。

その後の遊具等の利用再開時や屋内施設等の段階的な再開時においても関係機関と情報共有し、感染症対策の整合を図ることとした。

また、当公園へのアクセス道路における円滑な交通確保を図るため、「臨時休園」や「施設の利用制限」「イベント中止」等の情報を長岡国道事務所による道路情報板への掲載を依頼し、国道8号・17号の当公園へのアクセスに係る地点において協力していただいた。

4. 広報対応

今回の感染症対策に係る対応においては、前例が無くかつ臨機の対応が必要であったことから来園者に対して臨機に広報を行って利用制限等を周知することが重要であった。また、当公園を利用してくださっていた方々の心が離れないよう広報にも努めた。

(1) ホームページ等

当公園の運営維持管理については民間業務委託（以下「委託先」という。）により行っている。広報については当事務所のホームページ（以下「事務所HP」という。）と委託先が運営する公園のホームページ（以下「公園HP」という。）と分担しており、委託先は花の見所やイベント情報等を公園HPとSNS（ブログ、フェイスブック、インスタグラム）を活用して詳細かつタイムリーな情報発信を行っている。委託先の広報担当者とは平時から情報共有を図りながら広報を行っているが、今回の感染症対策についても常に情報を共有し、臨時休園と再開園に関する広報は事務所HPで行い、公園施設の利用制限等の詳細情報は状況に応じて適切なタイミングで発信できるよう公園HPに掲載した。

(2) 記者発表

新聞・テレビ等で広く公園利用者への周知がなされるよう記者発表を行った。この期間における主な記者発表は以下のとおり。

- ・4月17日：臨時休園（事務所）
- ・4月22日：花絵制作（委託先）
- ・5月11日：再開園（事務所）
- ・5月27日：ばら園見頃（委託先）
- ・6月23日：アジサイ見頃（委託先）
- ・7月14日：水遊び広場オープン（委託先）

このうち臨時休園中に実施したチューリップによる花絵制作については記者発表後に各新聞やテレビニュース等で何度も取り上げられ、開花状況など休園中の公園の様子を広くお知らせすることができた。



写真-9 花絵制作

5. おわりに

当公園は花修景や大型遊具等により多くの利用者がある公園であるが、今回の感染症対策では関係機関との連携によって対応を調整し、現在も一部施設において人数制限はあるものの全ての施設を再開している。

例年GW期間中は年間の約2割の来園者を占めているが、今年は再開園時点での入園者数は今年の8割減であった。その後、順次サービスレベルを回復することで7月末時点では6割減まで回復してきた。

今後も引き続き感染症対策を行いつつ、適切な公園の整備・管理運営により安全で信頼のある公園となるよう対応していきたい。